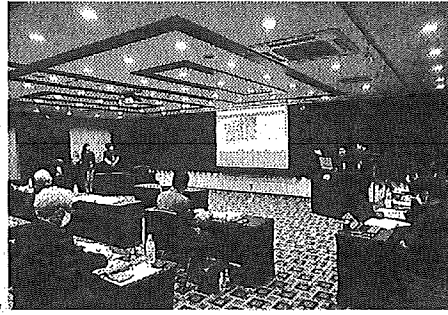


まちづくり提案 3作品が優秀賞

建コン協九州支部
夢アイデア交流会

建設コンサルタンツ協会（建コン協）九州支部（福岡宏治支部長）は5日、福岡市博多区のTKPガーデンシティ博多新幹線口で「夢アイデア交流会2020」を開いた。会場を拠点にオンライン形式で開く初の試みで、夢アイデアまちづくりに関する提案発表Ⅱ写真Ⅱでは10作品のうち3作品のプレゼンテーション

が遠隔から行われた。開会に当たって福岡支部長は「福岡の風物詩にもなってきた交流会が開けることを感謝したい。市民発意



のアイデアを建設コンサルタントとして応援していきたい」とあいさつした。提案発表では、応募のあった60作品の中から1次審査を通過した作品について提案者が狙いや内容を紹介。発表に続き、オンラインで視聴した参加者から寄せられた質問を基にした意見交換も行われた。

今回は最優秀賞の該当者はなく、優秀賞には▽インフラや施設にQRコードを貼り付けて情報を手でできるようにする「QR行動」の井上徹郎さん▽長崎県平戸市でミツバチが生息できる花を絶やさない地域づくりを目指す「ミツバチといっしょに花が咲き乱れるまちをつくりたい」Bee Flower city

の提案」の道井綾さん▽福岡県の糸島半島に蓄積された知恵を受け継ぐ地域づくりを提案した「里山里海イニシアティブー生物多様性を活かす伝統を未来へ」の清野聡子さんの3作品が選ばれた。

残り7作品は佳作。プレゼンに進めなかった作品の中から2件が特別賞を受賞。このうち鹿児島県の塾「ウェルネスJUMP講座」は、そこに学ぶ生徒たちから16作品の応募があったことが評価された。

審査員からは「夢が描きにくい中で作品を応募してもらえた」「夢を語り合うことは人生において必要なこと」など、コロナ禍にあっても夢を持つことの重要性が指摘された。玉川孝道審査委員長はアイデアを一段と深化させるためにも「観察眼を磨く努力をしてほしい」と述べ、次回は最優秀賞が選出されることに期待を込めた。